

# てつなぎ

No.70



島根県保育協議会・保育士部会



## ごあいさつ

保育士部会 部会長 岡本 徳子 (浜田市くもぎ保育園)

この度、保育士部会長を務めさせて頂く事になりました、浜田市保育連盟くもぎ保育園の岡本徳子です。初めて本会の役員となり、いきなりの大役に戸惑いばかりではありますが、この機会を大切に、部員の皆様に支えて頂き、会員の皆様方のご指導を賜りながら務めさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

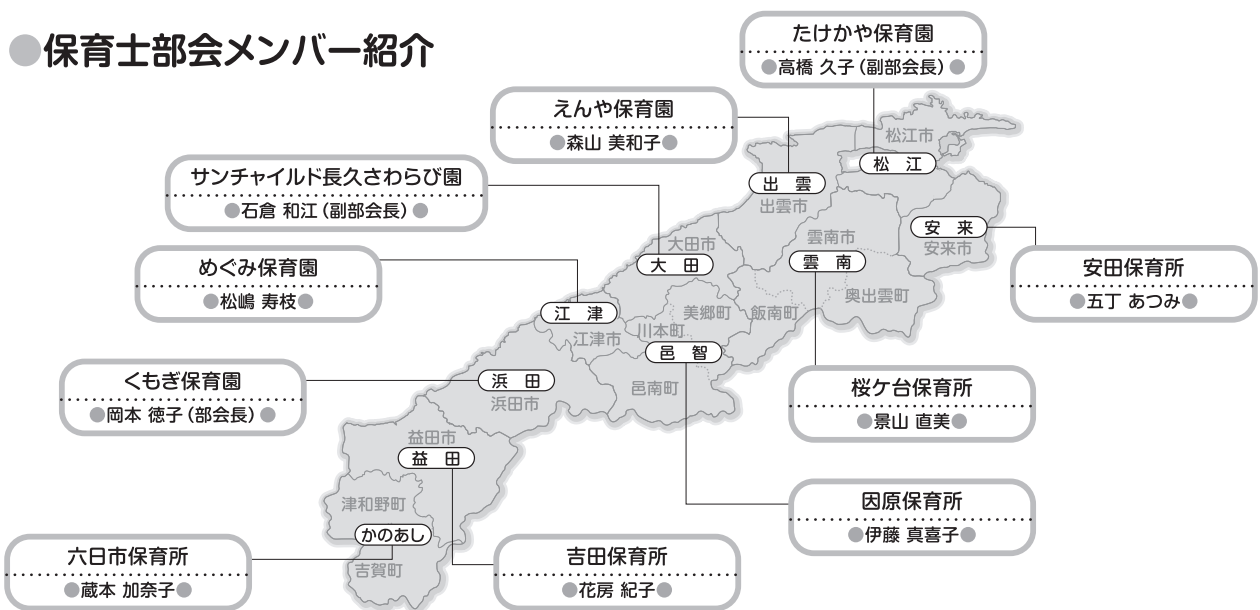
さて、7月4～5日に中国地区保育研究大会が、くにびきメッセにて開催され、中国5県と広島市の保育関係者950名余りのご参加を頂き盛大に行う事が出来ましたこと、主催者の一人として、厚くお礼申し上げます。

～すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして～をテーマにして2日間にわたり活発な研究、討議が行われました。そ

の中で、保育士が日々保育を振り返る事を意識し、保護者の気持ちに寄り添う支援をしていく必要性を改めて感じました。子どもを中心とした様々な思いがある中、これで良いと言う完璧な答えはありませんが、お互いに思いやりをもって、子どもたちの成長を見守っていきたいと思っております。

保育士部会は、調査編集委員、総務研修委員で活動します。保育士部会だより「てつなぎ」は、今年も年2回発行致します。各市郡の皆様から幅広いご意見、ご感想等頂けましたら嬉しく思います。今期は始まったばかりではありますが、みんなが同じ気持ちで取り組んでいけるよう頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

### ●保育士部会メンバー紹介



# どんな時代が来ようとも 大切にしたい保育の視点

～中坪先生突撃インタビューから～

去る7月4・5日に松江市を会場に第59回中国地区保育研究大会が開かれました。私達てつばぎ編集委員のメンバー達は、分科会の講師である広島大学大学院准教授の中坪史典先生に講演会や分科会からだけでは聞けない先生の素顔(?)に迫るべく突撃インタビューをしました。しかし、そこからは、驚きと同時に保育士として大切にしていかなければならない共通点にも触れることができ、人懐っこく気さくな人柄の奥に子ども達への限りない愛情と保育の質の向上へ向けて絶え間ない研究へのチャレンジ精神を垣間見ることができました。

前日先生は、今回の分科会では、《写真で振り返る保育環境》ということで、子どもの姿が入らない1枚の写真から保育環境を振り返って考えてみるワークショップも予定していると言われていました。そして、「今回の研修を通して、それぞれの園の園内研修に活かしていければという意図でやってみます。」とも話されていました。

当日の分科会では、子ども主体の保育、これも時代が変わっても大切にしたいことではあるけれども、保育士のアプローチの仕方、遊びを発展させることができ、子どもの活動をより理解できると語っておられました。子どもの生活の場である環境を整えていく環境構成の視点として、保育者が傍観や放任ではなく、あえて介入することはし

ないが、《補助線を引いたり、足場をかける》関与があり、子ども主体と関与のバランスが大事であると話されていました。子どもが自分で考えて行動し易くすること、子どもの力を信じることでできる保育士の存在が重要と言われていたことが印象に残りました。



ワークショップを通して、最後に感想として、「1枚の写真で保育環境を考えることは難しいことだったが、チームのいろいろな人の意見が聞け、推理し合うことを通して、他の人が言ってくれたのを聞くことで気づきがたくさんあった。」「多様な意見の交流が保育の質の向上につながった。」「環境構成が大事と思いながら、きちんと振り返りができなかったが、あらためて大事さに気づかされた。」…などの感想が述べられていました。



高速道路がつながって、島根が劇的に近くなった。気軽に来れる、来たくなった!

## 中坪 史典氏 (なかつぼ ふみのり)

長崎県出身。本籍地:長崎県佐世保市ハウステンボス町。広島大学助手(教育学部)、琉球大学助教授(教育学部)明星大学助教授(人文学部)を経て、2007年10月より、広島大学大学院准教授。

【社会活動】現在、日本保育学会理事、日本乳幼児教育学会常任理事、日本子ども社会学会理事、国際幼児教育学会理事、第22期日本学術会議連携会員などを務める。

【研究活動】保育実践におけるフィールドワーク、保育者の専門性、保育カンファレンス、保育の質が子どもの発達に与える影響などの研究に取り組んでいる。実践者と研究者のコラボレーションを通して、保育の営みの奥深さに光を当てることに取り組んでいる。

【主な著書】『子ども理解のメソッド—質的实践研究アイデアブック—』ナカニシヤ、2012年5月(編著者)

『幼児理解からはじまる保育・幼児教育方法』建島社、2009年12月(編著者)

『児童文化がひらく豊かな保育実践』保育出版社、2009年2月(編著者)

nakatsub@hiroshima-u.ac.jp <http://home.hiroshima-u.ac.jp/nakatsub/>

## プロフィール

## これからの保育園に期待すること

### チームで学び合うことが 保育の質を高めていく

「最近、若い保育士から、こんなことを聞きました。『大学では5領域については学んだが、保育室の環境構成については、ほとんど学ぶ機会がなかった。先輩保育士や園長・主任から、根拠がはっきり示されず、それぞれの好みや価値観について聞くことはなかった。子どもが実際どうであったかを振り返る保育環境については、自分は何にもしてこなかった。』と言われたので、保育の振り返りの一つの提案の形としてこのような子どもの姿の入っていない環境構成の写真にしてみようと思っています。」と、先生の意図を聞かせていただきました。園内研修の中で、1枚も子どもの姿が写っていない



保育環境の写真から保育環境を振り返ることを提案され、経験の年数や常勤・非常勤など働き方の違いを超えて、お互いに自分の思いを率直に語り合い推理し合うことにより、そこに込められた意図、思い、願いに気づきそれぞれの経験値が混ざり合うことがひいては保育の専門性、質の向上につながるのではないかと語っていただきました。

## 先生の素顔に迫ってみました

「今先生が夢中になっていることは何ですか?お聞かせください。」

「テーマパークが好きですよ。」

「特にどこがお好きですか?」

「ハウステンボス町出身ですので、もちろんハウステンボス、そしてディズニーです。フランスのユーロディズニーだけは、まだ行ってなくて世界制覇が目標です。」先生の意外なお答え(失礼ながら)に身を乗り出す取材班の私たちでした。

そして中坪先生のディズニーへの熱い思いは続きます。

「ディズニーはすごいですよ。」

「どんなところがすごいですか?」

「それでは・・・ディズニーのキャスト(スタッフ)はゲスト(お客)がアトラクションに乗る時『手を外に出さないでください。』とは



言わず『手を乗り物の中に入れてください。』と声をかけるのです。決して否定的な言葉は使わないのですよ。

もうひとつ・・・キャストが写真を撮ってくれる時は、『ハイ、チーズ』ではなく



「ハイ、ポーズ」と言うのです。なぜだと思いますか?」

「う～ん、わかりません。」

「それは、ミッキーをそわそわさせてはいけないからです。なぜなら、ミッキーはチーズが大好きだからです。」

「あ～そうですね。」

「ディズニーのキャストは、ゲストが喜んでその日その日を楽しく心地よく安心して、かつディズニーの世界に夢中になれるような、そんな共感感情を働かせているんですよ。それは保育園で心地よく過ごし、活動に夢中になれるように子どもたちと共感感情を持つ保育士の姿と通じるものがあり、キャストも保育士も相手理解の専門性で繋がっていますね。」

にこやかに話をされる中坪先生のディズニーの世界にひきこまれながら、立場がそれぞれ違っていても相手を大切に思う気持ちは同じであり、それは時代が変わっても変わらない大切なものであることを改めて教えていただいた思いでした。

気さくで時には少年のようなまなざしで語っていただき、あたたかい雰囲気のもとでも素敵な時間を共有させていただきました。

中坪先生本当にありがとうございました。

去る6月6日(木)開催の平成25年度「島根県保育協議会総会」において、「いま求められている心の育ち—子どもと親と、そして保育者—」と題して島根大学 副学長 肥後功一氏からご講演をいただきました。

平成25年度 島根県保育協議会総会  
「いま求められている心の育ち—子どもと親と、そして保育者—」

島根大学 副学長 肥後 功一

これからの子どもたち、私たちの子どもたちは、どんな世界を生きていくのでしょうか。急速に進むグローバル化、資源・エネルギー・食料需給などの問題、地域間格差の広がり、少子高齢化による人口構造の変化…など複雑な状況の中、1年後の予測さえ立てにくい「予測困難な時代」に私たちは生きています。

昨年8月に出された中央教育審議会のある答申は『このような時代に生き、社会に貢献していくには、想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力が求められる』と述べ、より具体的には次のような能力が求められるとしています。

・単に覚えている、知っている、人の出した問題に正答できるという再生型の知識ではなく、それらを活用して答のない問題に解を見出そうと自分から考える力

・人の痛みを理解し、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担おうとする社会的能力

実はこの答申は「これからの大学生に求められる力」を示したもののなのですが、答申の中では、こうした力が乳幼児期からの積み上げの上に形成されることが指摘されており、そのような意味で、今、保育・幼児教育は「未来を担う人材育成の出发点」として、大きな注目を集めつつあるとあってよいでしょう。

現在すでに、乳幼児期から「(絵)本」「芸術」「メディア」などと出会う体験(〇〇スタート)の重

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30

--	--	--	--	--

12									
11									
10									
9									
8									
7									
6									
5									
4									
3									
2									
1									
	CP	NP	A	FC	AC				

要さが認識されている時代です。今後はこの流れに、語学(英語)学習をはじめとするさまざまな知識・技能領域での、いわば「アカデミック・スタート」の流れが加わり、早期知育がいつそう促進されるような状況になるかもしれません。

そんな時代だからこそ、上述の答申で求められているような、主体的に考え未来を切り拓いていく「真の学力」に向かって、乳幼児期には何をしておくべきなのでしょうか。そのために、どのような保育者、あるいは保育所園の在り方が望まれるのでしょうか。子どもの心の発達やつまづきの相談をしてきた立場から、みなさんと一緒に、あらためて考えてみたいと思います。

平成25年度人材育成プロジェクト活動

平成25年度の人材育成プロジェクトの活動について紹介させていただきます。人材育成プロジェクトでは、今年度も「保育者が生き生きと活動するためにはどうすればいいか」を考えていくために、現場の保育士の悩みや課題を把握するための取り組みを続けていきます。現場での悩みや課題



を明らかにすることで、理想とするところや目指すべきところを再確認するきっかけを掴めるかもしれませんし、いろんな経験をもった人と意見交換することで、悩みや課題の解決のためのヒントも得られるかもしれません。そのための場として、「人材育成ミーティング」という会を開催することにしました。東部地区は11月13日(水)に松江市のいきいきプラザで、西部地区は11月15日(金)に浜田市の石央文化ホールで開催し、そこに集ってもらった方々と様々な意見を交換し合ってもらいたいと考えています。生き生きと保育をしたい!という思いは誰もがもっている思いであるはず。その思いと現状にはどんな差があるのか。そこにはどんな課題があるのか。それをしっかりと見つめる中で保育という仕事の意義を再確認してもらいたいですし、人材育成プロジェクトとしてもその課題の解決の

ために何ができるかを考えていくつもりです。今悩みがある、課題をたくさん抱えている、そんな方は「人材育成ミーティング」に是非ご参加ください。

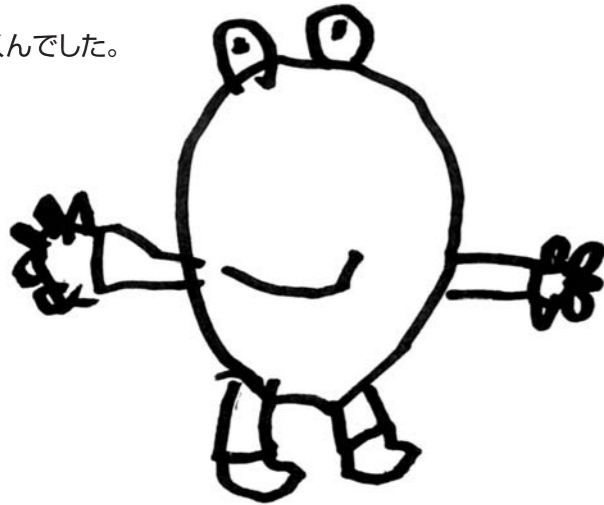


人材育成プロジェクトリーダー  
相山 慈(江津市 あさり保育園園長)

子どものつがやき

年長児Rくん

園外保育で採ってきたカエルが水そうの中で産卵!次から次へ出てくる卵を見ながらのつがやき。「わあ〜すげえー!!うちの母さん!こずつしか産めるのに…」三男Rくんでした。



連絡ノートより

3歳児

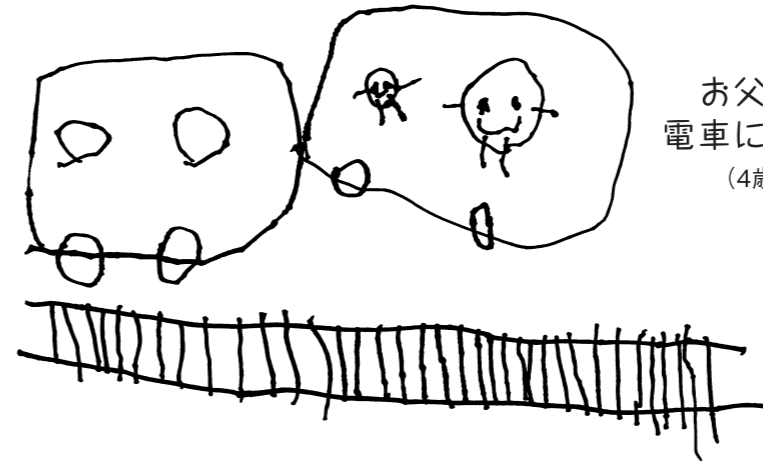
洗い台の管に水が流れトクトク、コンコンと音がすると「おみずがうたつとるよ」と何気ない顔で言うAくん。替え歌など上手なAくんには歌に聞こえたのでしょうか。



子どものつがやき

3歳男児

今日は雨降り。どんどん降り続ける雨の様子をクラスからじ〜っと見ていたAくんがポツリ。「おそとがげんきになったら、またあそぼうね」うんうんそうだね、はやくお外が元気になるといいね。



お父さんと電車に乗ったよ (4歳男児)

連絡ノートより

3歳児〜とんぼ組のお母さん〜

案の定、うんちが出なかった〇〇。朝、玄関で弟に「〇〇ちゃ〜ん。うんち、ねーねにちよだい♥」とおねだりしてました…。♥検便の日の朝のでき事でした。

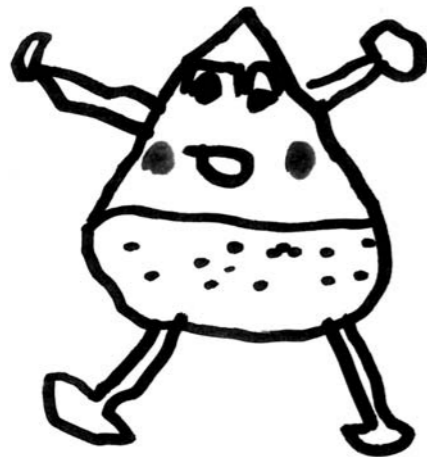


「おおきくなったらキリンになるよ。」 (3歳男児)

子どものつがやき

玄関で父親をおみおくりしているとき

「おとうさん、気をつけて行ってきて!大きい石があったらよけるんでーあぶないから!!」と大声で言うおみおくりしていました。近くにおられた保護者の方も爆笑でした。



みんなの声を聞いて! HOT ホッと

連絡ノートより

4歳児

日曜日は三瓶山のポピー祭へ。お花畑を走り回りました。昼食後少しすると

A「お腹すいた」  
父「さっき食べたのは?」  
A「もう背中に行ってしまった!!」  
やれやれ未恐ろしい食欲です。



幼虫つかまえたよ (4歳男児)

子どものつがやき

おませな4歳児

食事の時女の子ばかりのテーブルに所長が座ると「わあ〜女子会」とにっこり。今どきのお嬢さんです。



「ほくも 竹の子も 大きくなあれ!」 (5歳男児)

子どものつがやき

3才女児

お散歩の途中で立ち止まり、じっと道路を見つめるAちゃん。「あっ!Aちゃんのがかいてある?」と道路を指さし不思議そうなAちゃん。道路にはAちゃんの影が首をか上げてくっきりと…すごい発見だわ。

子どものつがやき

5歳児 畑の水やりからの帰り

A 「この草には毛虫はおらんよ」  
T 「なんでおらんの?」  
A 「だって草の中が暗いけん(夕方になって)だよ。お母さんがどこにおるかかわらんもん」  
T 「ふ〜ん、そうかあ、毛虫さんもお母さんが大好きなんだね。」